会 議	福 祉 産 業 建 設 委 員 会 会 議 録
日 時	令和5年12月13日（水曜日） 開会 午前 9時03分 閉会 午前11時27分
場 所	第2委員会室
出 席 委 員	委員長 都 築 幸 夫 副委員長 田 境 毅 野 坂 純 子 松 本 忠 明 長 谷 川 進 石 原 昇 丸 山 千 代 子 鈴 木 久 夫 (議長 藤 江 徹)
欠 席 委 員	なし
傍 聴 者	藤本和美議員、吉本智明議員、岩本知帆議員、 黒木一議員、廣野房男議員、稲吉照夫議員
説明のため会議 に出席した者	町 長 成 瀬 敦 副 町 長 大 竹 広 行 住民こども部長 三 浦 正 義 健康福祉部長 山 本 晴 彦 環境経済部長 鳥 居 靖 久 建 設 部 長 内 田 守 上下水道部長 石 川 正 樹 上下水道次長 齋 藤 啓 一 参事(健康保健担当) 金 澤 一 徳 住 民 課 長 野 澤 一 芳 こども課長 鈴 木 雅 也 保 険 医 療 課 長 築 田 聖 太 郎 福 祉 課 長 横 田 隆 之 健 康 課 長 相 川 美 代 子 環 境 課 長 近 藤 伸 繁 産 業 振 興 課 長 小 林 英 男 商工担当課長 稲 吉 仁 土 木 課 長 谷 川 啓 都市計画課長 大 熊 隆 之 区 画 整 理 課 長 杉 田 敦 俊 下 水 道 課 長 鳥 居 正 和
議会事務局職員	主 任 主 査 手 嶋 大 地

<p style="text-align: center;">会議に付した 案 件</p>	第62号議案	幸田町住民広場の設置及び管理に関する条例の一部改正について
	第63号議案	幸田町高齢者ふれあいプラザの設置及び管理に関する条例の廃止について
	第64号議案	幸田町営住宅条例の一部改正について
	第65号議案	西三河都市計画事業幸田駅前土地区画整理事業施行条例の廃止について
	第66号議案	幸田町下水道事業の設置等に関する条例の一部改正について
	第68号議案	土地の取得について（長嶺北部地区福祉医療ゾーン整備事業用地）
	第69号議案	指定管理者の指定について（幸田町地域振興施設）
	第70号議案	令和5年度幸田町一般会計補正予算（第6号）中、福祉産業建設委員会所管に係る歳入及び歳出
	第71号議案	令和5年度幸田町国民健康保険特別会計補正予算（第2号）
	第72号議案	令和5年度幸田町介護保険特別会計補正予算（第2号）
	陳情第16号	介護・福祉・医療など社会保障の施策拡充についての陳情
	陳情第17号	現行の健康保険証の存続を求める意見書の提出を求める陳情
	陳情第18号	パンデミック条約締結及び国際保健規則改正に係る情報開示を求める意見書の提出を求める陳情

委員長 皆さん、おはようございます。

12月に入りまして、師走とは思えないような暖かい日が続いております。

また、この週末から、大陸から寒気が南下して、大変寒くなるよということで、暖かくなったり寒くなったりで気温が大変、変化するようになってまいりまして、年末まで定例会閉会など、いろいろな大事な仕事がまだございます。体調を崩さないで、体調管理をしっかりお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

本日は、一般議案が7件、そして補正予算関係3件と計10件、大変たくさん議案がございます。質疑・答弁は簡単明瞭でお願いしたいと思います。

そして、慎重審議で進めたいと思いますので、よろしくお願いたします。

開会に先立ちまして、町長に挨拶をお願いいたします。

町長。

町長 皆さん、おはようございます。

委員長さんからお話ありましたように、とても寒暖の差があるという中で、インフルエンザ等の対策も十分講じていくということでもありますけども、学級閉鎖のほうは止まりません。その中にはインフルエンザの方々も多いんですけど、結構コロナに感染された方もいるということで、体調には十分留意いただきたいなと思っております。

つい最近、万博に関連した愛知駅伝では、2位という形で大変頑張っていたいただいたということでもあります。しっかりと体力づくりに努めていきたいなと思っております。

個人的にもインフルエンザだとか帯状疱疹だとか、様々な予防接種に対する助成もあるわけですが、そういったのをしっかり利用していただいて、疾病予防に努めていきたいなと思っておるところでございます。

また、産業関係では、イチゴの出荷も始まっておりますが、やはり暑かったということもありまして、ちょっと生育が遅れているかなということもありますけれども、そのうちまた回復ができると思っておりますけども、春先までのイチゴ——幸田町のイチゴのまた活躍、また販売実績がしっかりと成果が出るように応援してまいりたいと思っておるところでございます。

年が明けますと、凧揚げまつりの準備をしておりますけども、観客は入れますけども、自由な競技大会ではないということではありますけども、菱池遊水地の整備も進んでおりますため、今の情報では、あそこをつくっていただいている愛知県の建設部局の幹部の方々に、ぜひこの実情を見ていただいて、御案内をしたいなと思うとともに、株式会社デンソーさんの、地元の林社長さんも来ていただけるということで、社長さんが来ていただけるのは珍しいんじゃないかなと思うんですけども、しっかりと幸田町のたこ揚げと菱池遊水地の実情を見ていただきたいなということで準備を進めておるところでございます。

今日は委員長様からお話ありましたように、10件ございます。慎重審議のほどをお願い申し上げまして、本会議におきましても可決承認していただきますようお願いを申し上げます。

以上です。

委員長 ただいまの出席委員は8名であります。定足数に達しておりますから、ただいまより福祉産業建設委員会を開会いたします。

開会 午前 9時 3分

委員長 これより、議事に入ります。

さきの定例会本会議において、本委員会に付託された案件の審議を行います。

初めに、第62号議案 幸田町住民広場の設置及び管理に関する条例の一部改正についてを議題といたします。

本会議において説明は終わっておりますので、理事者に補足説明を求めます。

こども課長。

こども課長 第62号議案 幸田町住民広場の設置及び管理に関する条例の一部改正について補足説明をさせていただきます。

議案書9、10ページを御覧ください。議案関係資料は9ページと10ページであります。併せて御覧ください。

岩堀住民広場につきまして、令和6年4月1日開設に向けて工事を実施しているところですが、現在、排水施設となります側溝工事を行っているところであります。

11月末現在の進捗率は24%であります。今後、トイレ、防球フェンス等の設置や駐車場舗装を予定しております。

工事期間につきましては、令和6年3月21日までとなっております。

補足説明は以上であります。よろしく願いいたします。

委員長 説明は終わりました。

それでは、これより質疑に入ります。

質疑ございませんか。

質疑ないようでありますので、なければ、これをもって質疑を打ち切ります。

討論を省略し、採決いたします。

第62号議案 幸田町住民広場の設置及び管理に関する条例の一部改正についてを原案どおり決するに賛成の諸君の挙手を求めます。

(賛成者挙手)

委員長 挙手全員であります。

よって、第60号議案は、原案どおり可決すべきものと決しました。

次に、第63号議案 幸田町高齢者ふれあいプラザの設置及び管理に関する条例の廃止についてを議題といたします。

本会議において説明は終わっておりますので、理事者に補足説明を求めます。

福祉課長。

福祉課長 63号議案 幸田町高齢者ふれあいプラザの設置及び管理に関する条例の廃止について補足説明はありません。どうぞよろしく願いいたします。

委員長 それでは、これより質疑に入ります。

質疑ございませんか。

14番、丸山君。

14番丸山 今回、ふれあいプラザを廃止をするということで、その後にシニア・シルバー世代サポートセンターが入って活動するということでもありますけれども、そもそも、このふれあいプラザにおきましては、高齢者の施設ということで設置をした施設であります。

質疑の中でも明らかになりましたけれども、カラオケはやめるというようなことで、ほかのところで使ってくださいよということでありました。

また、ヘルストロンは自由に使っていいよということであったわけでもありますけれども、しかしながら、高齢者が行き場をなくしてしまうということには変わりはないわけであります。

説明の中では、利用者が年々減少して、コロナ禍でさらに減少、そういうようなことで、このふれあいプラザの施設そのものが高齢者にあまり使われてないということが廃止の理由にも挙げられたわけでもありますけれども、これから高齢者がどんどん増えてきて、そして、高齢者の居場所としての場がなくなってしまうということになるわけですから、その辺のところはどのようにお考えなのか伺いたいと思います。

委員長 福祉課長。

福祉課長 今現在も高齢者ふれあいプラザにおきましては、るる、おっしゃってますとおり、カラオケの利用だとかヘルストロン、また談話ということで高齢者の方がお集まりになる場所になっている一つではございます。

実際に談話等、ヘルストロンにつきましては説明のほう、させていただいたとおり、これまでどおり御利用いただくような予定はしてございます。

で、大きく、カラオケという部分に関しまして、やはり音の・・・具合の問題がございします。ひとつ事務室ということでの利用ということで、そちらのほうは今回、見送らせていただくことで決定のほう、させていただきました。

その代替の場所ということではございますけれども、老人福祉センターのほうを今、計画のほう、させていただいております、・・・ともスタッフともお話をさせていただきながら、こちらをうまく使っていただくように調整のほうをさせていただいているところでございます。

確かに、移動等の、今、足というところに関しましても注意する点はございますけれども、まず次の場所ということで、老人福祉センターのほうを有効活用していきたいというふうに考えてございます。

以上です。

委員長 14番、丸山君。

14番丸山 委員会の中でも、ふれあいプラザの廃止に伴う改修計画等も出されながら行われているわけでもありますけれども、しかしながら、これからやはり超高齢化社会の時代にあって、やはり高齢者の居場所をなくしてしまうということは、これはやはり問題じゃないかと私は思うわけでもあります。

やはり老人福祉センターは、老人クラブさんたちが使ったりとか、かなり自由に使うのは制限されてしまう。そうしますと、高齢者はどこに行ったらいいのかって居場所がなくなってしまう。そうしたときに、たまたま、今現在のサポートセンターのあるところが北部の包括支援センター、その場所としてやってきた。それで手狭になって、い

ろいろと後手後手に回って、結果的には、ふれあいプラザが空いてるじゃないかという
ようなことで、この計画が持ち上がったわけでありますが、しかしながら、やはりこの
シニア・シルバー世代サポートセンター、ここの移転先とすることにつきましては、や
っぱり考えていく必要があるんじゃないかなと私は思うんですね。

例えば、このシニア・シルバー世代サポートセンターは、国の補助金を受けて活動し
ている団体になってきているわけでありますが、国の補助がなくなったら、この団体
につきましてはどうなるのかっていうのは、将来的な継続性というのとは分からないわけ
ですよ。

ですので、そうしたときに、やはりまたここの場を、高齢者を追い出して、ここの場
を、この団体のほうの事務所としていくということについては、どうも私自身、いろ
いろ考えますと、ちょっとまずいんじゃないかなと思うんですね。

それよりかは、やっぱりこのふれあいプラザはふれあいプラザとして、初期の目的
のように、高齢者の施設としてきちんともっと利用をしやすい施設に切り替えていくと、
このスタンスに立ったほうがいいんじゃないかなというふうに思うんですが、その点に
ついてはいかがですかね。

もうそもそも廃止ですので、これはそのまま粛々とやっていかれるとは思いますが、
でもやっぱり、ここに至った経過、そもそも論から言うと、今回のこのふれ
あいプラザの廃止は間違っているんじゃないかなと私は思いますが、いかがですかね。

委員長 福祉課長。

福祉課長 今回、ふれあいプラザのほうにシニア・シルバー世代サポートセンターが事務所
として営業させていただくということで、そちら、中心的な施設ということで、今回、
廃止のほうで上げさせていただいたところでございます。

こちらのシニア・シルバー世代サポートセンターにつきましては、現在、2期目の国
の委託を受けて事業のほうを運営させていただいているところでございます。

まず、この組織に関しましては、この期間中、この3年のうちに何とか実装できるよ
うな体制づくりということで、ひとつ進めてまいりますので、何とか実装できる、そう
いった団体を目指していきたいということで事業のほうを続けさせていただきたいと思
っております。

また、高齢者の居場所に関しましては、やはりスタートにつきましては、やは
り・・・包括の手狭なところというところに一つございました。そういった中で、福祉課
の持っている施設の中での一つの代替ということで、こちらの施設のほうを上げさせて
いただいたところでございます。

確におっしゃるとおり、居場所づくりということに関しましては、ひとつ現状にお
きましては、場所は一つ廃止することになるわけでございますけども、ひとつこの先の
将来に大草広野地区での大きなプロジェクトですね、広野地区での福祉施策の構想がご
ざいますので、そういった中でこういった部分を補填できるように、また充実できるよ
うに計画してまいりたいと思います。

委員長 14番、丸山君。

14番丸山 大草広野地区の中で、高齢者の今、居場所ということで計画も上がっているわけ

でありますけれども、このシニア・シルバー世代サポートセンター、これはシルバー人材センターと仕事のなものも内容もかぶる部分もあるわけでございます。そうした点で、やはり分散させていくっていうのは、高齢者が利用しにくい施設になっていくんじゃないかなというふうに思うんですね。そうしますと、やっぱりこの大草広野地区のところでの活動といいますか、公募を連携しながら活動をしていくと、そういう長期的な見通しに立った計画のほうが、私は、より高齢者が利用しやすい施設になるんじゃないかなというふうに思うんですが、その辺のところも、当面はふれあいプラザを廃止をさせていくというようなことかもしれませんけれども、やはりそうした包括的な高齢者福祉施策の推進の意味から言えば、やはりきちんと計画を立ててやるということで進んでいただきたいということをお願いしたいなというふうに思うわけであります。

委員長 福祉課長。

福祉課長 ありがとうございます。まず、高齢者の居場所づくりということにつきましては、今後も十分配慮しながら、また、現在の高齢者ケアプラザを利用されている方も、円滑な次の利用できる・・・スペースづくりにつきましては、配慮させていただきたいと思えます。

委員長 ほかにありませんか。

なければ、これをもって質疑を打ち切ります。

討論を省略し、採決いたします。

第63号議案 幸田町高齢者ふれあいプラザの設置及び管理に関する条例の廃止についてを原案どおり決するに賛成の諸君の挙手を求めます。

(賛成者挙手)

委員長 挙手多数であります。

よって、第63号議案は、原案どおり可決すべきものと決しました。

次に、第64号議案 幸田町営住宅条例の一部改正についてを議題といたします。

本会議において説明は終わっておりますので、理事者の補足説明を求めます。

都市計画課長。

都市計画課長 それでは、第64号議案 幸田町営住宅条例の一部改正についての補足説明をさせていただきます。

議案書は13ページから14ページ、議案関係資料は12ページから13ページまででありますので、併せて御覧ください。

条例の概要についてであります。本条例につきましては、公営住宅法に基づく町営住宅及び共同施設の管理について及び地方自治法並びにこれらに基づく命令の定めるところによるほか、必要な事項を定めるものであります。

提案理由といたしましては、町営住宅の入居者資格の見直しに伴い、必要があるからであります。

改正の概要につきましては、町営住宅の入居者の資格要件のうち、現に同居し、または同居しようとする親族があることについて、当該親族に規則で定める者を含むこととするものであります。

規則で定める者といたしましては、パートナーシップ、具体的には双方または一方が

性的マイノリティーである二人が、互いを人生のパートナーとし、日常生活において継続的に相互に協力し合うことを約束した関係であります。

パートナーシップの宣誓を行ったものとして町長が証明する者、その他これに準ずると町長が認める者としております。

施行期日につきましては、令和6年1月1日であります。

以上で、幸田町営住宅条例の一部改正についての補足説明とさせていただきます。よろしくお願ひいたします。

委員長 説明は終わりました。

それでは、これより質疑に入ります。

14番、丸山君。

14番丸山 町営住宅の入居要件につきまして、パートナーシップ宣言の交付を受けた方が入居資格の見直しということで改善をされるわけでありましてけれども、これについては、やはり必要とされることと思うわけでありまして。

そこで、幸田町の町営住宅の入居要件の中に、単身者はなかなか入れないわけですね。単身——一人暮らしの方はですね。その辺の改善っていうのはどのようになっていくのかお尋ねしたいと思いますが、いかがでしょうか。

委員長 都市計画課長。

都市計画課長 実際は、これ、夫婦、親族ということでやっておりますが、65歳以上の高齢者ですね、単身である方は入れるようにはなっておりますので、特に若い世帯の単身というのは、ちょっと今の現条例では入れることになってないんですけども、65以上は大丈夫ですというようになっております。

委員長 14番、丸山君。

14番丸山 65歳以上の単身につきましては、入れるように、以前、改善をされてまいりました。ですけれども、だんだんと高齢になってきて、60歳以上になってくると、民間のアパートが借りられないとか、いろいろと問題があったり、例えば病弱だったり仕事をしていなかったりとか、そういった人につきましては、なかなか入居ができないということで、相談もいろいろ入ってきている中で、この65歳の壁というのが阻んでいたわけでありましてけれども、やはりこうしたパートナーシップ宣言の公布を受けたということで改善もされてきたわけでありまして、その辺のことも、年齢条件も撤廃をしながら、そして、単身であっても、やはり定額で借りられる住宅ということで、入居要件の資格の対象としていただけるように改善ということで、ぜひお願ひしたいというふうに思うわけでありましてけれども、その辺のところはいかがでしょうか。

実際、町営住宅の入居者が多数でありまして、後を待ってる方たちが大変多うございますので、なかなか限られた部屋数の中で枠を広げていくってことは大変かなと思うんですけども、しかしながら、いろんな非正規労働者の方たちとか、暮らしに大変な思いをされている方とか、いろんな状況がございますので、その辺のところを十分加味しながらやっていただきたいなというふうに思うんですが、いかがでしょうか。

委員長 都市計画課長。

都市計画課長 年齢条件のほう、今、65になっているんですけど、撤回できないかという

ころでありまして、近隣の状況とか公営住宅法等々の関係もありますので、今ここで幸田町が単独でちゅうわけにはいかないので、また周りの状況も見ながら、どのように世の中の流れが変わっていくかっていうところも見ながら、またここは勉強はしていきたいなというふうに思っております。

委員長 14番、丸山君。

14番丸山 幸田町の町営住宅につきましては、120戸ということで、もう何十年も変わっていない状況の中で、保証人要件の廃止ということも各自治体の中でも行われながら、そして、入居要件が緩和をされてきているということから考えても、いろんな意味の中で、やはりこうした大変厳しい生活をされている、そういう方たちは町営住宅に入りたいという、願っておられる方も多数おみえでありますので、その辺のところを改善しながら、さらに、やっぱりこうした安価な住宅の増設といいますか、そうしたこともこれから考えていかなければならないんじゃないんじやなかろうかというふうに思うわけでありますので、ぜひ、入居資格要件の見直しを、時節に合った内容に改善をお願いして終わりたいと思います。

委員長 都市計画課長。

都市計画課長 委員、言われますように、また周りの状況等を見ながら考えていきたいなというふうに思います。ありがとうございました。

委員長 ほかにありませんか。

なければ、これをもって質疑を打ち切ります。

討論を省略し、採決いたします。

第64号議案 幸田町営住宅条例の一部改正についてを原案どおり決するに賛成の諸君の挙手を求めます。

(賛成者挙手)

委員長 挙手全員であります。

よって、第64号議案は、原案どおり可決すべきものと決しました。

次に、第65号議案 西三河都市計画事業幸田駅前土地区画整理事業施行条例の廃止についてを議題といたします。

本会議において説明は終わっておりますので、理事者の補足説明を求めます。

区画整理課長。

区画整理課長 第65号議案 西三河都市計画事業幸田駅前土地区画整理事業施行条例の廃止について、資料は15ページ、16ページ、議案関係資料につきましては、14ページとなります。

この幸田駅前の区画整理事業につきましては、県の認可を町の施行条例に基づいて平成18年から事業を実施しておりましたが、今年度、事業完了に伴い、これを条例のほうを廃止させていただくものでございます。

以上であります。よろしく願いいたします。

委員長 説明は終わりました。

それでは、これより質疑に入ります。

質疑ございませんか。

15番、鈴木君。

15番鈴木 17年間かけて、今回、条例の廃止に至るわけでありますが、私たちが期待した、あるいは思っていた内容とはちょっと今、現状は、少し正直なことを言うと、残念な状況かなという率直な感じがしております。

ということも、結局、活性化が目的の区画整理事業であったわけですが、そのために協働化だとか商業化というものが達成されていない、現状を見れば、そういうことになってしまうんですけどね。

将来的には、また展開はしていくことを期待しておりますけども、そういう中で、この結果から見ると、要するに50億円以上の、町負担は20数億円だと思うんですが、総事業費は50億を超えてますよね。その中で、これ、もし道路事業でやっておると、芦谷高力線も芦屋蒲郡線も全て愛知県の事業施工で、町の負担はほぼないに等しいかなという状況もあったわけですが、そういう中で、二十数億円、町負担があるこの結果がちょっと残念であるわけですが、要は何が言いたいかっちゅうことは、今後、当初構想、10ヘクタールだったと思うんですけども、歩道で2.9ヘクタールで今回、事業終了したわけですけども、今後において、以前にも確認したかもしれませんが、条例廃止というこの機会に、これの機会は、区画整理は公共・・・sこれで終わりと、それで、道路あるいは街路事業として、残りの岡崎幸田線、芦谷高力線については進めていくということでの確認を最後にちょっとさせていただきたいと思います。

委員長 区画整理課長。

区画整理課長 そのとおりでございます。

区画整理については、10.6ヘクタールの中で残っておる道路としては、芦谷高力線で、今、芦屋蒲郡線、県のほうで事業をやっておきていただきますが、この辺のめどが立ったタイミングを見計らって、芦谷高力線あしがこうりきせんに入っていけるように、今、県と調整して進めている、こんな方針でおります。

15番鈴木 ありがとうございます。

委員長 ほかにありませんか。

なければ、これをもって質疑を打ち切ります。

討論を省略し、採決いたします。

第60号議案 西三河都市計画事業幸田駅前土地区画整理事業施行条例の廃止についてを原案どおり決するに賛成の諸君の挙手を求めます。

(賛成者挙手)

委員長 挙手全員であります。

よって、第60号議案は、原案どおり可決すべきものと決しました。

次に、第66号議案 幸田町下水道事業の設置等に関する条例の一部改正についてを議題といたします。

本会議において説明は終わっておりますので、理事者に補足説明を求めます。

下水道課長。

下水道課長 それでは、第66号議案 幸田町下水道事業の設置等に関する条例の一部改正について補足説明をさせていただきます。

議案書につきましては、17ページ及び18ページになります。

議案関係資料につきましては、15ページ及び16ページを併せて御参照ください。

議案関係資料15ページを御覧ください。

今回の条例改正は、農業集落排水事業に地方公営企業法の農園規定を適用し、会計を官庁会計から公営企業会計に移行し、幸田町農業集落排水事業特別会計を廃止するものであります。

16ページを御覧ください。

改正の内容につきましては、下水道事業に農業集落排水事業を加えるものであります。

まず、第1条におきまして、下水道事業を公共下水道事業及び農業集落排水事業と定義いたしまして、第3条におきまして、農業集落排水事業の供用開始した区域を追加するものであります。

また、改正附則第2項におきまして、幸田町農業集落排水事業特別会計設置に関する条例を廃止いたします。

施行期日は令和6年9月1日であります。

以上で、第66号議案 幸田町下水道事業の設置等に関する条例の一部改正についての補足説明とさせていただきます。よろしく願いいたします。

委員長 説明は終わりました。

それでは、これより質疑に入ります。

14番、丸山君。

14番丸山 今回、農業集落排水事業を下水道事業のほうに一本化していくということですが、国の方針として、令和6年までに完了しなさいよということであったわけですが、実際、ほかの自治体で公営企業会計に移行をしないところがあるかないかを伺いたいと思います。

委員長 下水道課長。

下水道課長 移行しないという市町村については、ちょっとうちのほうでは把握してなくて、近隣市町村のほうは調べさせていただいたところですが、大きい市町村では、既に移っているところもありますし、今回、うちと同じタイミングで、町村については、大体同じタイミングで移行すると聞いております。

以上です。

委員長 14番、丸山君。

14番丸山 公営企業会計に移行して、集配も移行して、下水道事業として行っていくということになりますと、幸田町の場合ですと、全部移行じゃないわけですが、そうしますと、例えば公営企業で言いますと、本来で言えば独立採算制ということが言われるわけですが、こうしたことで着々と公営企業会計に移行をしていって、いずれはこれが独立採算制になるということが想定されるのかどうなのか、その辺のところをお聞きしたいなというふうに思うわけがあります。

そうしますと、下水道料金と大変金額が上がってしまうというようなことにもなりかねないわけですが、その辺はいかがでしょうか。

委員長 下水道課長。

下水道課長 独立採算性につきましては、公営企業法の考えには基づいていますので、あくまで独立採算制でやりたいという希望はありますが、一方、幸田町は・・・をさせていただくという言葉を使わせていただきまして、職員の任務については、引き続き幸田町の財務会計だけを移行させていただいています。

また、独立採算事業を願いつつであります。料金の急な、今回の移行に伴っての料金体系とか、そういったことは、まだ今、考えておりませんので、よろしく願います。

委員長 14番、丸山君。

14番丸山 集配が下水道に接続しないのが3施設残るわけでありましてけれども、そうしますと、この2通りの処理方法ができてしまうということで、この辺のところは矛盾がしないのかなというふうに思うんですが、その辺はどうなんですかね。

委員長 下水道課長。

下水道課長 委員さんのおっしゃるとおり、3施設、引き続き・・・と排水事業として・・・は残っております。

公営企業会計に集落排水も移ることによって、特別会計ということで、皆様に予算からお願いするわけではなくて、公営企業法の中で、さらに集落排水事業と下水道・公共下水道部の二つの事業として表現させていただいています。

また、その混乱っていうわけじゃなくて事業が分かれていますので、それぞれセグメントという形で表記させてもらって、整理して会計を進めていこうと・・・よろしく願います。

委員長 ほかにありませんか。

副委員長。

副委員長 すみません、1点だけ教えてください。

今の説明、答弁いただいたんですが、セグメントで表記をされるんですけど、ちょっと心配してるのが、会計の仕方がこれ、今回、変わるようになります。先ほど丸山委員も言われましたけど、全部変わるわけじゃなくて、2種類のものが混在するってことになりますので、我々議会からすると、やっぱり中の状態をしっかりと確認しようと思うと、やはり書類上よく見えるような形が望ましいというのは思ってます。今までの会計の仕方では理解できたところが、今回のこの変更によって分かりにくくなるようなデメリットの部分を少し教えていただきたいと思います。お願いします。

委員長 下水道課長。

下水道課長 デメリットというのは、この最終的なところは、今まで一般会計・特別会計では、私たち職員もなんですけど、議員の皆さんも同じだと思うんですけども、見慣れた形で、そして歳入歳出のほうは、また事業について分かりやすいとか理解しやすい形だったとは思っています。

また、公営企業会計のほうは、私どももセグメントという新しい部分で勉強していくところではあります。セグメントという形もまた、財形の予算決算については、施工例とかで決まっている形でありますので、それはそれで、法律にのっとった決まった形での表現は変えることができませんので、そこはそうさせていただきますが、中身について

ては同じように丁寧にやるところは説明していきたいと思いますので、よろしくお願
いします。

委員長 副委員長。

副委員長 分かりました。やはり我々も勉強も必要だと思いますし、そういった新しいもの
に慣れていくことも必要だと思いますので、また、必要であれば、お互い変わったと
ころの会計の勉強をしっかりやらないと、ちょっとなかなか見にくいのかなという心配
もしておりますので、またそういった点がありましたら配慮はお願いしたいと思います。
よろしくお願いします。

以上です。

委員長 ほかにありませんか。

15番、鈴木君。

15番鈴木 ちょっと前に、会計移行に伴って、今までの下水道事業、都市計画事業としてや
ったわけですけども、その決算時でしたかね、要は都市計画税は目的税であるわけ
ですが、そのほとんどが下水道事業の償還金に3億円をほぼ投入しておる決算だと思
うんですよね。その辺の流れच्छゅうのは、何かこれから変化があるのか、どうなんです
かね。

委員長 下水道課長。

下水道課長 委員の言われるとおり、目的税のほうが都市計画税のほうを頂いておますの
で、それはさせもらっていません。

それは、市街化区域である都市計画のほうに、公共下水のほうに、今現在も上げさせ
てもらっています。出資金という形、集落排水については、今現在、・・・させもら
っていませんので、引き続き、公共下水のほうにおける計算のほうをさせていただいて、
その割合で行きますので、基本的には、今回、集落排水が公共下水のほうと同じように
合算した予算にはなりますが、・・・にそれに伴って増額するとか負担が大きくなる
か、そういうことはありませんので、よろしくお願いします。

委員長 15番、鈴木君。

15番鈴木 従来どおり今後も充当していくという考え方かと理解しましたけれども、そも
も、下水道が市街化区域内だけにとどまらず、市街化周辺の調整区域も下水道、公共下
水道、敷設して利用してますよね。

で、今回、集落排水事業の公共下水の中に入れてるということであるわけで、要はね、
都市計画税そのものの目的税のこれからの財源充当については、街路事業だとか区画整
理関係があまり出てこない。したがって、下水の償還金に充てるしかないというのが現
状でやってきておると思うんですけども、その中で、この集落排水を取り込んで調整区
域、市街化区域、全部網羅した中で、そういう下水道事業での充当が住民にうまく理解
してもらえるかच्छゅうのが、ちょっとあるかなと。

要は、市街化区域に住んでいる、あるいは土地を持つとる、建物を持つとる方々が、
毎年3億円を納めてるわけですよ。それでこういうふうに全町、公共下水道の中の推
進の中で、集落排水がこれで三つを残してなくなり、公共下水道業として取り組んでい
くच्छゅうことで、非常にその辺の交通整理っていうんですか、分かりづらさが出てき

たなという感じがします。

で、私、何でこんなこと言うかといいますと、要するに3億円を徴収しとるその地域に、こういう下水道にその目的税を充当することを別にいかんわけじゃないんですけども、そこからも3億円徴収した方々に還元をするという意識が、建設部全体の中に、担当者も含めて、よく考え方を浸透していただいて、毎年3億円、取っとる方々への還元という意識をもっと持っていただきたいなということを思うわけです。

調整区域の中をやらなくていいということではありませんけども、そういう特別に徴収されておるといふ53年間、3億円、ずっと徴収されとるわけですから、市街化区域に住んでる恩恵をこういった形でいろんな事業で還元をしていく、そういう考え方・意識をこれから持っていただきたいなということだけ申し上げておきたいと思います。

以上です。

委員長 ほかにありませんか。

答弁ありますか。

委員長 下水道課長。

下水道課長 引き続き、目的税のほうは財政課とも調整しながら、今回の・・・趣旨にのっとりまして、まず、目的税のほうは頂いておりますので、それに見合った仕事のほうでさせていただけると思っておりますので、よろしく願いいたします。

委員長 ほかにありませんか。

なければ、これをもって質疑を打ち切ります。

討論を省略し、採決いたします。

第66号議案 幸田町下水道事業の設置等に関する条例の一部改正についてを原案どおり決するに賛成の諸君の挙手を求めます。

(賛成者挙手)

委員長 挙手全員であります。

よって、第66号議案は、原案どおり可決すべきものと決しました。

ここで、10分間休憩したいと思います。

休憩 午前9時44分

再開 午前9時54分

委員長 休憩前に引き続き会議を開きます。

第68号議案 土地の取得について(長嶺北部地区福祉医療ゾーン整備事業用地)を議題といたします。

本会議において説明は終わっておりますので、理事者に補足説明を求めます。

福祉課長。

福祉課長 第68号議案 土地の取得について(長嶺北部地区福祉医療ゾーン整備事業用地)につきましては補足説明はありません。よろしく願いいたします。

委員長 それでは、質疑に入ります。

ございませんか。

14番、丸山君。

14番丸山 この福祉医療ゾーン構想に基づいて、この地域の土地を取得をされるという案件

でありますけれども、この取得金額が1億8,806万1,444円というふうになっております。

そこでお聞きするわけでありますけれども、既に福祉関係で言えば、藤川の里ですね、ここが進出予定ということで予定をされているところであります。

そして、もう1か所が、今現在、公募中の老健施設ということでありますけれども、確実にこの老健施設も来るのかということではありますが、まず、そこをお聞きしたいというふうに思います。

委員長 福祉課長。

福祉課長 こちら、長嶺北部地区福祉医療ゾーンの今、公募のほうで募集をしております介護老人保健施設の事業者についてであります。

12月8日まで募集のほう、一旦させていただいたところでございます。

今現在、提出いただきました書類のほう、内容を今、確認をしております、その中身について、一部ヒアリング等を行わせていただく予定でございます。

委員長 14番、丸山君。

14番丸山 そこで、この土地につきまして、今までこうした開発に当たって、この福祉施設や、医療施設は初めてでありますけれども、特養等で2か所とも、この土地につきましては、10年間貸与ということで、そして、あとは買い取っていただくというような中で進められてきたわけであります。

誘致した施設とはまた別に、違うわけではありますが、そうした点からしますと、今回この取得をして、この二つの施設に対しては、どのような、即買い取っていただくのか、それとも、年数を限って貸与をして、後々、取得をしていただくという方向で進まれるのかを伺いたいと思います。

福祉課長 福祉課長。

福祉課長 こちらの土地の将来的な状況等の取扱いについての御質問かと思っております。

まず、介護老人は藤川の里ですね、障害者支援施設のほうにつきましては、今現在の協定のほうにつきましては、永年の無償借地ということでの内容となっております。

また、介護老人保健施設の募集要項の中につきましては、10年後の一つの目安として、将来的には、10年後程度の買取りというところで要件に入れさせていただいているところでございます。

委員長 14番、丸山君。

14番丸山 1施設については永年の無償貸与ということからすれば、これは本来、もともとで言えば、愛知県の事業団の施設であったわけであります。それが県から切り離されて独立をしてくるという、そういう施設であるわけですが、しかしながら、無償貸与をしていくということからすれば、これは幸田町が初めての取組になるわけですね。ですので、本来で言えば、やっぱりこれは買い取っていただくべきではないかなというふうに思うわけではありますが、その辺のところは、なぜそのようになったのか伺いたいと思います。

委員長 福祉課長。

福祉課長 こちらの藤川の里につきましては、もともと、町の中で障害の方で、行き先がなかなかないという中で受け取っていただく際に御尽力いただいた団体でございます。そ

の際に、当時かなり老朽化が進んでいる中で、代替地を探しているということで、こういう話がスタートしたことを聞き及んでおります。

そこで、幸田町の中で今、進めております北部——この地域をお示ししたところに興味を持っていただいて、一つの移転候補地ということでの御検討をいただいたということで話が進んできたところということでございます。

今現在、県のもともとの所有地でございますところに建物等を譲り受けまして、愛知県厚生事業団のほうで運営されておられるわけでございますけれども、今まで土地の買取り等を行ってきていないということということも含めて、無償での移転というところの話題が上がってきたところでございます。

幸田町におきましても、このような重度障害のある方の対応する施設がなかったものでございます。またそういったところの組織、また専門職が幸田町に来ていただくということで、今後、幸田町内で暮らされる重度障害のある方につきましての対応ということにつきましても、かけがえのない、そういった力というんですかね、といったところをお願いしたいということも含めて、今回、無償借地の移転ということで話を進めてまいったところでございます。

委員長 健康福祉部長。

健康福祉部長 補足説明をさせていただきます。

幸田町に今、特別養護老人ホーム——特養については、3施設ございます。

一番歴史が古いのは、豊坂小学校の近くにあるまどかの郷でございます。

こちらのほうは、町の土地に法人の施設がありますので、無償借地の状態で運営されております。

2番目にできましたのは、坂崎地域にありますつつじヶ丘という特別養護老人ホームです。

こちらのほうは、幸田町が当時5,000万円の補助をして建設をされまして、10年後に土地を購入していただいたという特別養護老人ホームになります。

最後に、一番新しいのが、深溝地区にありますメリーホームでございます。

こちらのほうは、法人が土地を自分で購入されて建設をされているという特別養護老人の3か所、三様の状況にあることを御承知いただければ幸いです。

委員長 14番、丸山君。

14番丸山 十分承知しております。

やはりこうした誘致をした施設と、それから進出をする施設、いろいろ様々になるわけですが、しかしながら、やはりこれは、個々の、やっぱり独立採算でやっていく施設であります。

そうしたことから考えると、民間施設あるいは愛知県の事業団であるわけですが、やはり誘致をしても、こうしたところでの幸田町の無償借地ということで、覚書を踏まされてやってみえるわけではありますが、しかしながら、やはりこれは、ほかとの整合性も取れなくなってくるということから考えると、やっぱりこれは便宜を図らう、そうしたことはいいわけですが、これはやっぱり、いずれは取得をしていただいて、その法人のものになっていただくと、こういうようなのがやはり望ましいのではないかと

というふうに思うわけでありませぬ。

で、撤退したときに、じゃあ、どうなるかと、いろいろ考えるわけでありませぬが、しかしながら、やっぱりこれは多額の町費をつぎ込んでやってきている土地でありませぬので、この辺のところにつきましては何らかの形でやっぱり取得をしていただくと、その辺のところも一つの基準をつくっていただきたいと思ひますが、いかがでしょうか。

委員長 福祉課長。

福祉課長 こちらの障害者施設のほうにつきましては、現状におきまして、愛知県厚生事業団との協定の中で無償借地ということで今、進めさせていただいておりますので、こちらの施設につきましては、このような形で進めさせていただけるように考えています。

委員長 ほかにありませんか。

15番、鈴木君。

15番鈴木 ちょっと1点確認させていただきたいんですけど、今回、買収地内のことじゃなくて、何て言うんですかね、この当初計画のときに、ちょうど坂崎長嶺2号線は一部拡幅をしてやっていくというような絵が描いてあったかなという記憶があるんですけど、これについては、開発でそういうことが必要になったという説明があったと思うんですけど、ちょっと最近の状況を私が聞き漏らしとったかもしれませんが、周辺道路を整備を含めて、何か買収ゾーン以外での町道関係において、何か動きや考え方があったら教えてください。

委員長 答弁を求めます。

福祉課長。

福祉課長 こちらは、開発のエリアに関しましては、福祉課のほうで所管させていただいてございます。

また、そこに接する町道坂崎長嶺2号線ですかねにつきましては、現状において・・・拡幅という予定は今のところございません。・・・地内に町道設置というような形での、今、準備を進めております。

委員長 ほかにありませんか。

なければ、これをもって質疑を打ち切ります。

討論を省略し、採決いたします。

第68号議案 土地の取得について（長嶺北部地区福祉医療ゾーン整備事業用地）を原案どおり決するに賛成の諸君の挙手を求めます。

（賛成者挙手）

委員長 挙手全員であります。

よって、第68号議案は、原案どおり可決すべきものと決しました。

次に、第69号議案 指定管理者の指定について（幸田町地域振興施設）を議題といたします。

本会議において説明は終わっておりますので、理事者に補足説明を求めます。

産業振興課長。

産業振興課長 第69号議案 指定管理者の指定について（幸田町地域振興施設）についての補足説明をさせていただきます。

議案書23ページ、24ページ、議案関係資料につきましては、19ページから21ページを併せて御覧ください。

幸田町地域振興施設である道の駅の指定管理期間が令和6年3月31日をもって終了するに当たり、令和6年4月1日から5年間において、施設の運営管理及び利用に関する業務を指定管理者指定申請がありました現在の指定管理者である合同会社筆柿の里・幸田について、コロナ禍における厳しい状況下においても健全な経営がされている実績評価を踏まえ、今後のさらなる施設運営に向け意欲的であり、管理代行させるように適当な団体と選定し、新たに指定管理者として指定するものであります。

補足説明は以上となります。よろしく申し上げます。

委員長 説明は終わりました。

それでは、これより質疑に入ります。

14番、丸山君。

14番丸山 この指定管理を継続するに当たってお聞きをするわけでありまして、事業実績の中の財政状況であります、コロナ禍ということもあるわけですが、令和4年度につきましては、売上高にもかかわらず、純利益が減少してきているという状況の中で、令和元年度からの比較も出てきておりますけれども、この辺のところですね、どこに問題があるのかということですが、まず、中身を見てみますと、なるほどなと思うようなところもあるわけですが、しかしながら、例えばこの前、図書館講座の中で、道の駅の黒字に転換をしてきたという方のお話をお聞きをしたわけでありまして、やはり幸田町の合同会社さんの運営がいかんというわけじゃないですよ、いかんというわけじゃないんですけれども、やはりノウハウっていうのを持っている、そうしたところとの協働も、これ、やっていく必要性があるのかななんて、ちょっと感じたわけでありまして。

やはり、今まで従来どおりの運営方法では、やっぱり今の状況に合わないんじゃないかなというのがありますし、また、魅力ある道の駅にしていくということから考えると、やっぱり新しい、そうしたノウハウも取り入れていく必要性があるということもあるんじゃないかなというふうに思うんですが、その辺のところは、今回の指定管理の継続に当たって、そうした話合いといいますか、その辺の協議というのはされたのかどうかお聞きしたいと思います。

委員長 産業振興課長。

産業振興課長 まず、財政状況につきましては、売上げは伸びておりますけれども、純利益が下がっているというところにありますけれども、これにつきましては、現在の世界情勢に瀕する国内の物価上昇や原材料単価等が価格が上昇していることを受けて、その商品の仕入れの単価が大きくなったり、また、光熱水費の価格が増大したという経費の増大による支出額が重複また要因の一つ挙げられると思っております。

今までにおいても、コロナ禍の状況の中に、来客のいろいろ影響もあったと思っておりますし、現在でも蒲郡間の工事がされている中、そういった来客の影響も大きいものがあったなというふうには感じております。

さらに今回、この継続に当たり、道の駅筆柿の里・幸田さんで審査するに当たって、今

後の展開も確認をさせていただくところでもありますけども、しっかりと今後の管理運営に対して、いろんな今の運営を変えていこうという気持ちは当然持っておられます。

今の、コロナ禍といったそういう時間内のみならず、時間外のほとんど、何とかできないかとか、今は、うちのほうも、いろんな道の駅も見て、併せて情報を一緒に共有しながら、売り方だとか、売り場の工夫だとか、そういったところも情報共有をさせていただいたところでもあります。

いろんなノウハウを、そういう専門的な知識、そういったところも、いろんな勉強会、そういったものも考えながら、取り組んでいきたいというふうには思っております。

委員長 14番、丸山君。

14番丸山 ほかの、この委員会の中で視察をしたところにおきましては、やはりこの道の駅
独自で商品開発をしたりとか、あるいは産地を形成したりとか、そういうような独自性
を持ったこともやられているというようなことから、いろんな運営方法があるかという
ふうにするんですけれども、やはりこれから継続をして、そして、いわゆる幸田町の道
の駅はもう20年も経過してきている中で、やっぱりいろんな利用者増、そういうことも、
これからやっぱりもっと真剣に考えていっていただきながら、そして地の利を生かした
運営ということと、それから、やっぱり筆書きの里というからには、そうした筆柿の保
存とか、そういうことも道の駅としてやっぱり取り組んでいくとか、そういうような、
もう少し運用だけではなくて、もう少し独自性を生かした特色ある道の駅ということで、
ぜひそうした取組もお願いをしながら、継続のほうでも頑張ってもらいたいなという
ふうに、これ、お願いであります。

以上です。

委員長 産業振興課長。

産業振興課長 ありがとうございます。

道の駅としましても、今、これは特産物——幸田町の特産物、直売のほうをしっかりと
と力を入れているということでもあります。

そういったチャンスを生かした加工品だとか、そういうブランド商品とか、そういった
のも指定管理者である道の駅さんにつきましては、研究を重ねていただいております。
そういったものをしっかりと有しながら、この時期に合ったものを、また、商品化する
なり、指定管理者の方と情報共有をしながら行きたいと思えます。

以上です。

委員長 ほかにありませんか。

副委員長。

副委員長 すみません、今もいろいろとずっと議論をされている中で、やっぱり私も、お客
さんがやっぱりたくさん来てもらえるのが望ましい場所だと思っています。

幸田町のいわゆる情報を発信する拠点であったり、今だと、物流関係も含めて、やっ
ぱり道路を使われる方が立ち寄る施設になっていますので、こういったところに幸田と
してどういったものを展開していくかというのは、すごく重要なポイントだと思っ
てます。

そういったところを達成するときに、ちょっと今、前から問題になっているのが、駐車

場の手狭さ、いわゆる安全上の問題が発生しやすい状況がずっと続いています。

これは国土交通省が所管する駐車場だったりするので、町としてどうだっているところは、施設の部分とはちょっと違う部分があるものの、やはり乗用車で一般の方が来るときの安全、それからトラックが休憩して出入りするときの安全というのを考えたときには、ちょっと今のままではまだ厳しいかなと思ってます。

昨日、たまたま、昼の時間帯に通ることがありましたので、拡張したのにもかかわらず、23号線から進入してきて、駐車場に入った一番南側の襟の部分ですね、トレーラーだとか大型トラックがやっぱり縦列駐車を満車でした。

しかも、その下の出入りに使う町道部分もトラック・トレーラーが実は並んでまして、2列に並んじやってるような状態が、昨日時点でも実は起こってるんですね。

これ、先ほどもありました令和6年の開通を考えちゃうと、当然、さらに物流は活発になりますので、もう本当に行き場がないトラックだとかがどこに行くのかという、桐山地内だったり、いろんな道路に路駐をするようなことが、実は発生してますので、そういった面も考えると、やっぱり駐車場の在り方をもう少しいろいろ考える必要があるんじゃないかなと思ってます。

で、これ、ちょっと一緒に考えておられていると思いますが、今も町として、駐車場の問題に対する今の状況ですか、そういったところが、今、分かっているとところがありましたら情報共有したいと思います。教えていただきたいと思います。お願いします。

委員長 産業振興課長。

産業振興課長 駐車場の、狭いということになると思います。

これは、今、本当に駐車場が狭いというのは、もう本当に現実の一番の課題でもあると捉えております。

令和6年の暫定開通に向けて、・・・の名古屋国道事務所と・・・のほうで、交通、また、この開通に向けた交通量を調査している状況であります。

それを踏まえて、道の駅の施設に利用者も含めて、アクセスが渋滞を招くんじやないかというところの情報を調査と共に共有させていただいてるところです。

その上で、しっかりとこの道の駅の駐車場の、そういった利用がされている状況を国のほうに伝えて、しっかりと駐車場の拡大というところのにつなげていくためにも要望をさせて、つなげていきたいというふうには考えております。

委員長 副委員長。

副委員長 ぜひ、いろいろと関係のところには弾を撃っていただきたいと思います。

そういった駐車場の関係が発生しますと、実は毎日、駅長さんがトラックのところに、乗用車のところに行って、こんこんしながら1件ずつ全部声かけて、ちょっとどけてもらえませんかってことを繰り返されてるんです。

やっぱりそういった部分も含めて、努力はするものの、なかなか解消できてない事実がありますので、ぜひ今後、期待をします。よろしくお願いします。

以上です。

委員長 町長。

町長 道の駅の整備促進ちゅうのは私にとっても重要な課題でございまして、今、言われ

たように4車線化されたら、必ずたくさんの車が来て、休憩の場所としても重要なポイントになるだろうと。

もちろん、蒲都市さんが今、道の駅を計画はされてはいませんが、名古屋方面・豊橋方面へ来ても、幸田町のこの道の駅の位置च्छゅうのは、とても重要化されるということで、現在、今、お話が担当からありましたように、まず、重点道の駅。防災上の拠点もとても大事なところだということを国のほうで指定していただいて、国の力で駐車場の拡幅事業に努めていくとともに、拡幅したら、やっぱり先ほど来、お話、ありましたように、今の道の駅のにぎわいをもっと維持するためには、もうちょっと直さなくちゃいけないところがあるんじゃないかなということ併せながら、町がもちろん持ち出して整備してもいいんですけども、国の事業で何とか重点道の駅にする、もう一度あそこの道の駅のゾーニングを考え直す機会を国のメニューでお願いしないかというところまで今、来てますけれども、じゃあ、どこに駐車場を拡幅したらいいかっていうことを私どもの、やっぱり町として、ここを拡大させてもらいたいということを今、提案させていく段階に来ておりますので、もう少し時間が頂きたいなと思っております。

委員長 ほかにありませんか。

なければ、これをもって質疑を打ち切ります。

討論を省略し、採決いたします。

第69号議案 指定管理者の指定について（幸田町地域振興施設）は、原案どおり決するに賛成の諸君の挙手を求めます。

（賛成者挙手）

委員長 挙手全員であります。

よって、第69号議案は、原案どおり可決すべきものと決しました。

ここで、理事者入替えのために暫時休憩といたします。

休憩 午前10時21分

再開 午前10時24分

委員長 休憩前に引き続き会議を開きます。

次、第70号議案 令和5年度幸田町一般会計補正予算（第6号）中、福祉産業建設委員会所管に係る歳入及び歳出を議題といたします。

本会議において説明は終わっておりますので、理事者に補足説明を求めます。

委員長 住民課長。

住民課長 第70号議案 令和5年度幸田町一般会計補正予算（第6号）の福祉産業建設委員会の一般会計歳入につきまして御説明いたします。

住民課につきましては補足説明はありません。

委員長 こども課長。

こども課長 こども課所管分につきましては、補足説明はありません。

以上です。

委員長 福祉課長。

福祉課長 福祉課所管分の歳入につきましては、御説明はありません。

以上です。お願いします。

委員長 土木課長。

土木課長 土木課につきましても補足説明はありません。

以上で、一般会計歳入の補足説明は以上であります。

委員長 それでは、これより質疑に入ります。

歳出をお願いします。

住民課長。

住民課長 続きまして、一般会計歳出につきまして御説明いたします。

住民課所管分の歳出につきましては、補足説明はございません。

以上です。

委員長 こども課長。

こども課長 こども課所管分につきましては、補足説明はありません。

委員長 保健医療課長。

保健医療課長 保健医療課の主管部については、補足説明はありません。

委員長 福祉課長。

福祉課長 福祉課所管分の歳出につきましては、補足説明はありません。

委員長 健康課長。

健康課長 健康課につきましては、補足説明をさせていただきます。

健康課所管分の歳出につきまして、別冊補正予算関係の18ページ、19ページ、議案関係資料につきましては、28ページ、29ページを御参照いただきたいと思います。

25款衛生費、10項保健衛生費、10目保健衛生総務費の救急医療対策事業567万6,000円につきましては、夜間急病診療所の運営におきまして、岡崎市医師会にたいしまして、岡崎市と協働して委託をしております。

負担割合につきましては、岡崎市と事務協約に基づき、前年度の10月1日現在の人口比率を用いて保存して、岡崎市90.8%、幸田町9.1%の負担でございます。

次の15目の予防費の予防接種事業、補正額4,710万1,000円につきましては、令和4年度に概算交付された額を受け入れまして、令和5年度に実績に基づいて精算するものであります。新型コロナウイルス感染症ワクチン接種体制確保事業費国庫補助金返還金3,207万4,000円につきましては、主に接種会場の設営、コールセンター、消耗品・備品購入費や職員の時間外手当の分であります。

新型コロナウイルスワクチン対策費国庫負担金返還金1,460万3,000円は、主に医師・薬剤師・看護師への報償費であります。

感染症予防事業費等国庫補助金返還金42万4,000円につきましては、国の特定感染症検査等事業の負担として実施している風疹抗体検査予防接種の無料クーポン券配布事業の返還分であります。

健康増進法保険事業の疾病予防対策事業費国庫補助金返還金2万4,000円は、右の新たなステージに入ったがん検診の総合支援事業の一環として実施している乳がん検診と、子宮頸がん検診の無料クーポン券配布事業の返還分であります。

また、20目母子衛生費母子保健事業の母子衛生事業の母子保健衛生費国庫補助金返還金24万1,000円は、妊娠・出産・包括支援事業として行う、・・・検診。それから、産後

ケア事業の返還分であります。

健康課所管分の歳出の補足説明につきましては、以上であります。よろしくお願いたします。

委員長 環境課長。

環境課長 環境課所管分の歳出についてであります。補足説明はございません。どうぞよろしくお願いたします。

委員長 産業振興課長。

産業振興課長 次に、産業振興課所管分の歳出について、別冊補正予算関係の20ページ、21ページ、議案関係資料につきましては、29ページを御参照ください。

補足説明につきましては、40款商工費、10項商工費、15目商工振興費、商工業振興事業につきまして、小規模企業等振興資金等信用保証料補助金1,000万円を追加計上するものであります。

小規模企業等振興資金と信用保証料補助金につきましては、当該の商工業者に対し、愛知県信用保証協会に納める信用保証料について、20万円を限度に補助金を交付するものであります。

11月末時点の申請件数が83件であり、前年同月までの前年比約173%と、2倍近い申請となっております。

金融機関への確認では、新型コロナウイルスの感染症の影響により開始された実質無利子無担保で融資を行う仕組みのゼロゼロ融資が返却期限を迎える中、借換え等により申請が増加している状況であり、さらに年度末に向けて増加する見込みであります。

中小企業及び中小規模の商工業者が資金の融資を円滑に行えるよう支援するため、追加補正をお願いするものであります。

以上、産業振興課に係る補正予算の補足説明についてであります。どうぞよろしくお願いたします。

委員長 土木課長。

土木課長 土木課所管分の歳出に関して補足説明はありません。

以上で、第70号議案 令和5年度幸田町一般会計補正予算（第6号）の福祉産業建設委員会所管分の補足説明は以上であります。どうぞよろしくお願いたします。

委員長 説明は終わりました。

それでは、これより質疑に入ります。

質疑ありませんか。

14番、丸山君。

14番丸山 40款商工費でお伺いたします。

ゼロゼロ融資の返済が始まったということで、さらに借換えということですが、本会議の中でもお願をしたわけでもありますけれども、やはり厳しい経済状況の中で、コロナ禍、そして物価高騰、中小業者の負担がかなり増えてきておりますし、また、返済に対する厳しい状況の中で、貸し渋りがないように、ぜひ町のほうからもよろしくお願したいということでもあります。

また、セーフティーネット等もあるわけでございますけれども、この融資相談という

んですね、これも町としてもぜひ相談に乗っていただきながら、そしてまた、金融公庫、こちらのほうが何か有利のようでございますので、そうした点でのアドバイス等もできないのかなというふうに思うんですが、その辺のところはいかがでしょうか。

委員長 商工担当課長。

商工担当課長 このゼロゼロ融資が期限を迎えてっていう中での貸し渋りを政府が言うというようなどころのお話かと思います。

本町におきましては、そういったことを防ぐためにも融資の調達っていうようなことを県と一緒にやって行っておるところでもあります。

また、こちらの小規模企業等振興資金等につきまして、補助のほうをさせていただいております。

こちらにつきましては、支給条件に多くの制約を課さず、ハードルを下げることに、融資を受ける際、商工業者にとって保証料が必要とならないように考慮していこうというところでありまして、そういったようなどころからも、うちのほうはさせていただいておるといことと、あと、また、国のほうからもこういった円滑な融資っていうようなことで、金融機関等においても文書も来ております。

また、行政のほうにも来てておりますので、そういったような文書を基に、ないようということ動いておるといところでもあります。

二つ目の融資相談という部分、町のほうでというところではありますが、なかなか町のほうでは融資に関して細かく言うようなどころができない部分がありますけれども、金融協会に、町の金融協会さんのほうとも協力をしまして、こういった融資のほうをスムーズに行けるように努力してまいりたいと思っております。

委員長 ほかにありませんか。

なければ、これをもって質疑を打ち切ります。

討論を省略し、採決いたします。

第70号議案 令和5年度幸田町一般会計補正補正予算（第6号）中、福祉産業建設委員会所管に係る歳入及び歳出を原案どおり決するに賛成の諸君の挙手を求めます。

（賛成者挙手）

委員長 挙手全員であります。

よって、第70号議案は、原案どおり可決すべきものと決しました。

次に、第71号議案 令和5年度幸田町国民健康保険特別会計補正予算（第2号）を議題といたします。

本会議において説明は終わっておりますので、理事者に補足説明を求めます。

保健医療課長。

保険医療課長 第71号議案 令和5年度幸田町国民健康保険特別会計補正予算（第2号）についてですが、補足説明はありません。どうぞよろしくお願いします。

委員長 それでは、説明が終わりましたので、それでは、これより質疑に入ります。

質疑ございません。

14番、丸山君。

14番丸山 歳出でお願いします。

新たに国民健康保険税算定システム改修業務委託料が上がっているわけでありませけれども、基金を取り崩して、ここに充てるわけでありませが、これ、説明の中で全世代のものだというふうに説明があつたわけですけれども、この内容を詳しく説明願いたいと思ひませ。

委員長 保険医療課長。

保険医療課長 こちらはシステム改修なんですけれども、令和5年5月の19日に全世代対応型持続可能な社会保障制度の社会制度を構築するための健康保険法等の一部を改正する法律、こちらのほうが発出されました。

コロナ禍で地方税法の改正がありませ、産前産後の被保険者、出産をする予定もしくは出産した人の、その方に係る均等割と所得割を減額しようという内容でござひませ。

1人妊娠の場合につきませは、出産する日の属する月の翌月、出産する予定月の前月から翌々月までの4か月間、双子や三つ子などの多胎児妊娠をされている方につきませは、出産予定日の3か前から翌々月の6か月間、こちらのほうの、その方に係る均等所得割と均等割を減額しようという内容になっておひませ。

こちらのほうなんですけれども、本来、最終日に条例改正のほうを予定させておひませ。

委員長 14番、丸山君。

14番丸山 この関係で、また条例改正もあるということであるならば、もう少し詳しい内容をお答えください。

委員長 保険医療課長。

保険医療課長 こちらのほうなんですけれども、先ほど申し上げました法律の改正に基づきませして、さらに7月の20日に政令が開始をされました。

こちらの政令ですけれども、全世代対応型の持続可能な介護福祉制度と健康保険法等の一部を改正する法律の一部の施行に伴う関係政令の整備に係る条例ということで・・・がされました。

こちらのほう、国民健康保険税につきませは、参考省令というものがありませして、それを基に条例のほうの改正のほうをしておひませ。これによって、どこの市町も、よく似た国税であれば、似たようなものになるんですけれども、その参考省令がされたんですけれども、今回、ちょっと誤りがありませしたということで、なかなか提出のほうがされなくて、で、できたのが、最終が11月の20日ということで、こちらのほうが今回、当時の提案に間に合わなかつた理由でござひませ。

その減額期間なんですけれども、単体妊娠、4か月間ということで、単体妊娠の場合だったら4か月間になります。

こちらのほうは、法定軽減が、まず国税につきませは、軽減があります。低所得世帯につきませは、軽減をされる場合には、7割軽減・5割軽減・2割軽減というようなものがあるんですけれども、まず、その法定軽減で軽減された後の金額について、まず12分の一月――12分の1の計算をして、その4か月分を減額をしますという内容になります。よろしくおひませ。

委員長 14番、丸山君。

14番丸山 大変複雑な内容だというふうに思うわけではありますが、それでまたお聞きをするわけですけれども、国の改正によってこのシステム改修を行わなければならない、それならば、なぜ国のほうから来なかったのかと。わざわざ国保の財調から基金を外して取り組まなければならないのか。後から還元があるんですか。

委員長 保険医療課長。

保険医療課長 こちらのほうなんですけれども、国の制度の改正によるシステム改修ということで、国のほうからの補助金があります。

こちらのほうは、特別調整交付金というもので頂くんですけれども、ただ、今回12月補正で補正のほうがつきましたら、取りかかるのは1月以降になってしまって、1月の支払いということになってしまいます。

この特別調整交付金の申請期限っていうのがありまして、前年の1月から12月までということで、5年度の補助金申請は見送りで、6年度の補助金で、補助金申請で行うために、今回につきましては財政調整交付金からの取崩しで対応するという形で考えております。

委員長 14番、丸山君。

14番丸山 そうしますと、後からまた国のほうからシステム改修分の497万2,000円、全額補助金があるということで理解してよろしいでしょうか。

委員長 保険医療課長。

保険医療課長 お見込みのとおりでございます。

委員長 ほかにございませんか。

なければ、これをもって質疑を打ち切ります。

討論を省略し、採決いたします。

第71号議案 令和5年度幸田町国民健康保険特別会計補正予算（第2号）を原案どおり決するに賛成の諸君の挙手を求めます。

（賛成者挙手）

委員長 挙手全員でございます。

よって、第71号議案は、原案どおり可決すべきものと決しました。

次に、第72号議案 令和5年度幸田町介護保険特別会計補正予算（第2号）を議題といたします。本

本会議において説明は終わっておりますので、理事者に補足説明を求めます。

福祉課長。

福祉課長 それでは、第72号議案 令和5年度幸田町介護保険特別会計補正予算（第2号）について補足説明いたします。

別冊補正予算関係資料39ページをお開きください。

今回の補正につきましては、令和5年度幸田町介護保険特別会計において、歳入歳出予算の総額に、歳入歳出それぞれ1億784万2,000円を追加し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ25億2,416万5,000円とするものであります。

歳入につきましては、40ページ、41ページを、歳出につきましては、42ページ、43ペ

ージを御覧ください。

なお、議案関係資料は32ページ、33ページになりますので、併せて御参照ください。

介護保険事業につきましては、高齢化が進み、介護認定者が増加しており、介護サービスの利用が増えたことによって、介護給付費等が増加している状況であります。

また、新型コロナウイルス感染症が5類になったことにより、介護サービスの利用者、利用料ともに増えていること、さらには、三つの地域包括支援センターの活動が活発になってきたことにより、介護に関する相談の機会が増え、必要な支援につながっていることが要因と考えております。

本町の介護保険事業の状況といたしましては、今後も高齢者の増加とともに介護サービス、介護予防サービスの利用が増える見込んでおります。

現在、策定を進めています第9期高齢者福祉計画及び介護保険事業計画におきましても、事業計画や介護保険料にも大きく影響することと考えております。

第9期計画につきましては、12月27日に3回目の策定委員会を開催し、計画草案について御協議いただいた後にパブリックコメントを実施し、今年度中の策定を予定しております。

なお、2月の福祉産業建設委員協議会におきまして、第9期計画期間における介護保険料について御説明をさせていただく予定をしております。

以上で、第72号議案 令和5年度幸田町介護保険特別会計補正予算（第2号）についての補足説明を終わります。どうぞよろしくお願いたします。

委員長 説明は終わりました。

それでは、これより質疑に入ります。

委員長 14番、丸山君。

14番丸山 介護認定者が増加したということでもありますけれども、今、全体で何人の認定者数になるのかお尋ねしたいと思います。

委員長 福祉課長。

福祉課長 介護認定者の数であります。

手元にある一番新しい情報で、令和5年の10月分ということでもありますけれども、1,374人になります。令和4年度末ですので、令和5年3月で1,317人でしたので、その差、57人ですかね、この間に増えているというような状況でございます。

委員長 ほかにありませんか。

なければ、これをもって質疑を打ち切ります。

討論を省略し、採決いたします。

第70号議案 令和5年度幸田町介護保険特別会計補正予算（第2号）を原案どおりに決するに賛成の諸君の挙手を求めます。

（賛成者挙手）

委員長 挙手全員であります。

よって、第72号議案は、原案どおり可決すべきものと決しました。

これをもって、町長提出議案の審議は終了いたしました。

ここで、町長の挨拶をお願いいたします。

町長。

町長 ただいま提出議案の10項目にわたりまして、慎重審議ありがとうございます。

それぞれ頂いた意見の中で、やはりこれからの行政運営に当たりまして、掘り起こされていく重要な課題等をたくさん頂いたので、また、次の施策の展開にもしっかりと反映していかなくてはならないなと思っておるところでございます。慎重審議ありがとうございます。

また、今日、午前中、最初の方に、学級閉鎖の状況についてしっかりと数字が言えなかったわけでありまして、12月13日、本日でありますね、閉鎖中の学級数が13学級ということで、幸田小6、中央小1、荻谷小1、豊坂小3、幸田中1ということで、13学級の閉鎖があるというところを報告させていただきたいと思っております。

また、審議の途中で、最終日におきまして追加上程させていただく議案があります。そういった中で、説明で一部あったように、国保の関係についても条例改正の情報等がちょっと遅れて来たために、条例の改正整備がちょっと間に合わなかった、また、施行期日の関係もございまして、最終日の追加上程というような形の補正予算もそうでありまして、人勸の関係の絡みもございまして、追加させていただく議案があるということでもあります。

また、補正予算関係につきましては、地方創生の臨時交付金がまた頂ける、また、そういった金額の関係の流れの中で、LED化ですね、公共施設・地元施設のLED化をその費用を当てていったりだとか、または家電ですね、こういった方々でこぼれている、漏れなくということで、こういった方々も、全ての方々に援助していきたいということにおいて、現状の地方創生交付金も充てていきたいという考え方で、また御提案をさせていただきたいと思っております。

当初予算編成におきましても、コロナの規制が終わっていろんなところに皆さんが病院に行かれるように、そういったいろんな治療行為もいろいろ含まれる中で、扶助費といいますが、子どもの医療費、障害者の医療費、そして母子医療費等々が、扶助費の中でかなり大きな割合を占めていくということに、またいろんな形でなっていくんじゃないかなと思っておりますし、また、介護保険につきましても、先ほど9期の策定の経過の中で、今後、2月に協議会にまた出させていただきますけれども、介護保険料というところについても、策定の機会を捉えて、またいろいろな形を資料として出させていただきますということで、見直しということでもありますけれども、そういったお話も協議させていただく機会が出たというようなお話も所管からありましたので、これについてもよろしくお願ひしたいと思っております。

少し長くなりましたけれども、また、子育て施策についても、国のほうから、他市の方々について、大学の授業料の免除だとか、いろんな児童手当をもっと拡充するだとか、それから、保育園等々のいろんな施設入所については入りやすくするだとか、様々な子育て施策は国のほうでかなり見解が進んでおりますので、そういった事業もしっかりと見極めながら、町の財政状況も見極めながら、また新しい子育て施策の展開ということにもまた及ぶと思っておりますので、こちらについても、併せてまたいろんな形でお話をさせていただくことを思っております。

本日は慎重審議ありがとうございました。

以上です。

委員長 どうもありがとうございました。

ここで10分間休憩したいと思います。

理事者は退席をお願いいたします。

休憩 午前10時53分

再開 午前11時03分

委員長 それでは、ここからは陳情の審議を行います。

陳情書全文の朗読は省略し、件名、陳情者の氏名・住所、陳情の趣旨と陳情事項の主な内容の朗読をもって説明とさせていただきます。

個人事業者の住所等を公開することについては、本人から承諾を得ております。

陳情第16号 介護・福祉・医療など社会保障の施策拡充についての陳情書を議題といたします。

それでは、副委員長にお願いします。

副委員長 陳情第16号、件名は介護・福祉・医療など社会保障の施策拡充についての陳情書であります。

陳情者は、名古屋市熱田区沢下町9-7、労働会館東館3階301号、愛知自治体キャラバン実行委員会、代表者、森谷光夫氏であります。

陳情項目1件目は、「自治体DX推進は、住民の福祉の増進と人権保障のために行ってください。」として、「情報システム標準化の下でも自治体独自の施策を維持、拡充してください。」の陳情をはじめ、2項目の陳情であります。

陳情項目2件目は、「県民の要望である、市町村の福祉施策を充実してください。」として、「安心できる介護保障」の陳情をはじめ、10項目の陳情であります。

陳情項目3件目は、「国および愛知県に以下の趣旨の意見書を提出してください。」として、「国に対する意見書については、現行の健康保険証を存続してください。」の陳情をはじめ、9項目の陳情、愛知県に対する意見書については、「子どもの医療費助成制度を18歳年度末まで実施してください。」の陳情をはじめ、4項目の陳情であります。

以上です。

委員長 朗読が終わりました。

意見などがありましたらお願いします。

委員長 14番、丸山君。

14番丸山 来年度は6年に一度ある診療報酬や介護報酬の年であります。介護保険制度の改定する年でもあります。第9期になるわけであります。

しかし、国はコストカット型経済からの転換を言いながら、高齢化などで増える社会保障費の自然増分は削減路線を継続しております。

また、少子化対策の財源確保を口実に、社会保障の歳出削減も掲げているわけであり、医療や介護は歳出削減を進める一方であります。

コロナ禍や物価高騰、円安などによって国民の暮らしは大変悪くなっております。ま

た、負担も増える一方であります。

こういう状況にありまして、陳情項目にありますように、子育て支援の充実や、安心して介護が受けられるようにしていくためにも、施策の拡充が求められるものであります。

陳情項目は多岐にわたっておりますけれども、とりわけ国や県に対する意見書提出については、趣旨を理解していただき、採択していただけるように求めているものであります。

以前にも行われましたように、趣旨採択という中で、幸田町でぜひともこれを実現したい、こういうような点につきましては、国や県にぜひ意見書を提出していただくように、私はこの陳情に対して賛成であります。

委員長 ほかにありませんか。

副委員長。

副委員長 ただいま議題となっております陳情第16号 介護・福祉・医療など社会保障の施策拡充についての陳情について、反対の立場で意見を申し上げます。

本陳情の内容は、まず1個目が自治体トランスフォーメーション、こういった内容になっております。こちらについては、取組が既に町としては始めておる内容で、その中で検討していくべき項目かなと考えております。

ほかにも、二つ目でありますと、介護・福祉・医療、子育ての支援なども含めて大変多岐にわたる内容になっております。こちらのほうにつきましても、刻々と変化する社会情勢の中で、法に基づき適正・着実に推進されているもの、さらに社会保障施策の拡充について検討されているものもありますので、今後、国の取組ですとか、県の動向をしっかりと守っていくべきだと考えております。

こういったところから、今回の件については反対の立場で意見を申し上げます。

以上です。

委員長 ほかにありませんか。

4番、松本君。

4番松本 私も反対の立場で述べさせていただきます。

今、副委員長が、述べられたことと少しかぶりますけれども、やはり国の施策として推進している部分が結構あって、子育て支援ですとか、今日、マイナンバーカード保険証の話はニュースで言っていましたけど、そういったのをちょっとしっかり注視して見ていく必要があると思いますので、これそのものを採択するということについては、反対の立場で述べさせていただきます。

以上です。

委員長 ほかにありませんか。

5番、長谷川君。

5番長谷川 私も反対意見として、やはりこういったものを単独で、・・・のね、形で進めるっていうことは本当に危険なところもあるかなと思いますので、やはり国・県・町といった、また行政のね、やっぱり動きを、動向を見ながら、並行して進めていくべきかなということで、今回、反対させていただきます。

委員長 ほかにありますか。ありませんか。

15番、鈴木君。

15番鈴木 私も反対の立場ですが、いずれにしても、多岐にわたる、各範囲にわたる要請あるいは支援の要請につきましては、町もそうですけど、国は財政赤字状態がかなり深刻な状況があります。そういった中で、何を施策を優先していくかちゅうところは、国としてもあると思うわけでありますので、多岐にわたる要請支援は混乱を招きますし、今の財政状況では非常に無理があるかなということから、反対を述べさせていただきます。

委員長 ほかにありませんか。

3番、野坂君。

3番野坂 私も反対なんですけど、幸田は支援のほうがすごくなされているってことを言われていて、例えば、母子手当でも本当に幸田町は受けやすいってことを、結構おられる人もいて、そうすると、今度、名古屋に住んでる若い人が、幸田町は保険を受けやすいから、幸田に引越したほうがいいかななんていう声が結構出てるということで、とてもそれはよくないというふうにちょっと思ったので、やっぱりしっかりと慎重にしていかなければいけないかなって思いますので。

委員長 ほかにありませんか。

なければ、これをもって意見を打ち切ります。

討論を省略し、採決いたします。

陳情第16号 介護・福祉・医療など社会保障の施策拡充についての陳情書を採択するに賛成の諸君の挙手を求めます。

(賛成者挙手)

委員長 挙手少数でございます。

よって、陳情第16号は、不採択すべきものと決しました。

続きまして、陳情第17号 現行の健康保険証の存続を求める意見書の提出を求める陳情書を議題といたします。

副委員長、朗読をお願いいたします。

副委員長 陳情第17号、件名は、現行の健康保険証の存続を求める意見書の提出を求める陳情書であります。

陳情者は、名古屋市昭和区妙見町19-2、愛知県保険医協会理事長、荻野貴俊氏であります。

陳情の趣旨は、「国に対して意見書を提出してください。」として、「現行の健康保険証の存続を求める」とするものであります。

以上です。

委員長 朗読は終わりました。

意見などがありましたら、お願いします。

14番、丸山君。

14番丸山 私は、現行の保険証の存続を求める意見書、ぜひ国に対して出していただきたいという立場からお話をしていきたいというふうに思います。

このマイナンバー保険証につきましては、既にトラブルがいろいろと出てきておりまして、このマイナ保険証に対しては、ひもづけされたものが全く違う方のひもづけがされてきたりということで、非常に病院等でも混乱を起こしてきております。

そういう中で、厚労省によりますと、別人の保険情報が登録されていた事例って、7,300件以上ということで、国のほうもこの調査をいたしたところであります。

今日の新聞にも載っておりましたけれども、岸田首相は、2024年の秋にはやっけていきますよというようなことを言っておりましたけれども、しかしながら、調査した後も次々とトラブルが出てきているという状況の中で、何ら保険証を廃止しなくてはならない状況はないわけでありまして。

さらに、厚労省でもマイナ保険証と併せて従来の保険証を御持参くださいというようなことまで出しておきながら、いろんなトラブルが出てきている状況の中で、この保険証を廃止する不都合っていうのは何もないわけでありまして、従来どおり出していたきたいというふうに思うわけでありまして。

また、マイナカード、これも取得率が70%というような状況の中で、これを見切り発車するのはいいかがかというふうに思うわけでありまして、ぜひこれを、国のほうは新聞報道はそうになりましたけれども、しかしながら、まだまだこれから実施まで1年弱ぐらいの期間があるわけですので、そうした点におきまして、全員に交付しなければならぬというようなことはないわけでありまして、マイナ保険証、これは任意とする、そういうような取組もできるわけでありまして、ぜひ現行の保険証存続を求める意見書を、私は採択していただきたいというふうに思います。

委員長 ほかにありませんか。

副委員長。

副委員長 ただいま議題となっております陳情第17号 現行の健康保険証の存続を求める意見書の提出を求める陳情書について、反対の立場で意見を申し上げます。

政府は2024年の秋に現在の健康保険証を廃止し、マイナンバーカードと健康保険証の一体化を発表しております。我が国の医療分野でのデジタルトランスフォーメーションの推進は喫緊の課題であります。基盤整備によってサービスの効率化、質の向上を実現できる社会への変革を進める必要があると思っております。

一方、毎年マイナンバーカードを巡るトラブルについては、昨日、想定結果が公表され、現在、国民の不安を払拭するための措置が講じられていると考えております。

そういった状況でありますので、今後の国の動向を見守るべきと考えます。そういったことから、意見書の提出は差し控えたいと思います。

以上です。

委員長 ほかにございませんか。

なければ、これをもって、意見を……ありますか。

15番、鈴木委員。

15番鈴木 反対の立場でありますけれども、いろんなこのマイナンバーカードに関しての様々なトラブルとかシステムエラーとかあるようではありますが、中にヒューマンエラーも含めて、あるようであります。

その心配することにつきまして、一定の理解はいたしますけれども、全ての法律の制定・成立の規定もあって、今の段階では、国もこの辺のエラーについては、これから反省をして前に進めていくということを信頼・信用しまして、今回はこの意見書の提出は差し控えていったらどうかと思っております。

委員長 ほかにありませんか。

5番、長谷川君。

5番長谷川 私も反対という立場で意見を言わせてもらいますけれども、非常にデジタル化が進んで、こういう保険証をね、マイナンバー版とひもづけしてやっていくということで、私は非常にいいことだなということを、出たときに思いました。

その理由の一つとして、私もだんだんだんだん年取って、病院通いが多くなったんですけど、目の前に後期高齢者が数人いて、その中の2人が、いろんな病院を五つの病院を渡り歩いとるらしいんですけど、もうやっぱりそういう現場で、新たな病院に来たときに、薬くれ、薬くれって言われてもね、あっちとのいろいろなね、整合性をさせたいいろんな医薬品を提供しなきゃいかんということで、非常に病院も困っておりまして、マイナンバーカードがあることによってね、どこの科にかかっているか、薬の成分、何かやっていうこともいち早くできて、医療のスピーディーな対応は図れるということで、私はぜひこういったものを進めていただきたいというようなところと、そのマイナンバーカードでのいろいろな諸問題があるものの、今、改善対策を取っているところですので、ぜひそれに向かって、医療の現場のスピーディーさを図っていただきたいなというようなことで思っておるところであります。

委員長 ほかにありませんか。

4番、松本君。

4番松本 私も反対の立場で、本陳情に対しては採択反対の立場で述べさせていただきます。

まず、この保険証に限らず、DX——デジタルトランスフォーメーションが目指す、そういう社会を実現するっていうのは、これはもう日本だけじゃなくて、国際的にどんどんどんどんこういうことが進んでいくと思います。健康保険証に限らず、スポーツですとか、いろんなものがどんどん一体化されてきて、それに伴って、今、委員さんが御指摘のように、リスクだとかいろんなことがありますけれども、それは1個1個片づけていけばいいかなと。

この健康保険証につきまして言いますと、誤登録がたくさんあった、それから、あと、決算の中でも、ひもづけ業務、間違ってたとか、そういうのもあったということですけども、それは現段階で精査して調べた段階でも改修すると、そういう動きが加速しているので、そういった動きを注視してやっていって、そもそも、今、こういった廃止っていうことではなくて、継続して並行してやってるんで、そこでしっかり問題を洗い出してやっていけばいいと思いますので、今の動きをしっかり注視して目標を見ていくということで、この陳情の採択そのものについては反対の立場で述べさせていただきました。

以上です。

委員長 ほかにありませんか。

なければ、これをもって意見を打ち切ります。

討論を省略し、採決いたします。

陳情第17号 現行の健康保険証の存続を求める意見書の提出を求める陳情書を採択するに賛成の諸君の挙手を求めます。

(賛成者挙手)

委員長 挙手少数であります。

よって、陳情第17号は不採択すべきものと決しました。

続きまして、陳情第18号 パンデミック条約締結及び国際保健規則改正に係る情報開示を求める意見書の提出を求める陳情書を議題といたします。

副院長、朗読をお願いします。

副委員長 陳情第18号、件名は、パンデミック条約締結及び国際保健規則改正に係る情報開示を求める意見書の提出を求める陳情書であります。

陳情者は、幸田町大字深溝西向野11番地4、エバーグリーンN103号室、桐戸範和氏であります。

陳情の趣旨は、「国に対して意見書を提出してください。」として、「現在、WHO総会で行われているパンデミック条約の草案及び国際保健規則の改正案に関する協議内容や国民生活への影響等を、分かりやすく国民に周知すること」の陳情をはじめ、3項目の陳情であります。

以上です。

委員長 朗読は終わりました。

意見などがありましたら、お願いします。

副委員長。

副委員長 陳情第18号 パンデミック条約の締結及び国際保健規則改正に係る情報開示を求める意見書の提出を求める陳情書に対して反対の立場で意見を申し上げます。

各国の新型コロナウイルス感染症対策の教訓を踏まえ、改正に向けた国際的な議論が行われているようであります。したがって、国の動向を見守るべきと考え、意見書の提出を差し控えたいと思います。

以上です。

委員長 ほかにありませんか。

14番、丸山君。

14番丸山 私も反対の立場から発言したいと思います。

陳情者が新型コロナウイルス感染症の経験を踏まえて、将来の感染症の蔓延に備えるためとしておりますけれども、その内容は、まだ発展途上ではありますが、パンデミック条約の交渉用のテキストにもあるとおり、国家主権の尊重、内政干渉、国際連携促進の原則の下、将来のパンデミックに際して低所得国が当該感染症の治療薬・ワクチンなどの公平な供給を受けられるよう、技術・ノウハウの移転、生産能力の強化、病原体の情報へのアクセスと利益配分に係るルールを定める方向で交渉が進められているものとして承知をしております。

陳情1、2、3につきましては、国連憲章とWHO憲章に基づいて策定される国際協

力の枠組みづくりの条約によって各国の主権が侵害されたり統治権が奪われたりすることなど、あり得ないことであります。実際、パンデミック条約の交渉用テキストにも各国政府の主権の尊重と内政への不干渉が明記をされております。

また、条約のテキストを練り上げる政府間交渉会議の審議は、WHOのWebサイトで誰でも閲覧できるように中継され、録画もアップロードされて、一般公開に供されるなど、極めて透明性の高い形で開催されております。

以上から、この陳情には賛成しかねるものであり、反対をいたすものであります。

委員長 ほかにありませんか。

15番、鈴木君。

15番鈴木 私は、この陳情書は反対の立場で申し上げます。

陳情項目、3項目の中のうちの1番は、この内容を分かりやすく・・・に周知するというようなことについては必要なことではあるかなと理解はいたしますが、2番、3番の意見聴取の手續の開始だとか、国家主権のこういった日本国民の自由と人権の尊重を侵害しないというようなことなどにつきましては、まだこのパンデミック条約の及ぶ範囲だとか詳細については、本当にまだ分からない点多々あるような感じがいたします。各国の合意形成もまだまだなかなか難しい状況もあるようであります。

ただ、WHOのテドロス事務局長の考え方としては、ワクチンの検査薬は発展途上国平等に分配できる施策だとか、またはWHOへの過度な権限移譲は否定をしているものであります。

以上、現時点での意見書提出は、とにかく差し控えていべきかなというふうに思っております。

委員長 ほかにありませんか。

なければ、これをもって意見を打ち切ります。

討論を省略し、採決いたします。

陳情第18号 パンデミック条約締結及び国際保健規則改正に係る情報開示を求める意見書提出を求める陳情書を採択するに賛成の諸君の挙手を求めます。

(賛成者挙手)

委員長 挙手なしであります。

よって、陳情第18号は、不採択すべきものと決しました。

これをもって、本委員会に付託されました案件の審議は全て終了いたしました。

審査結果報告書の作成については、私に御一任願いたいと思います。

以上をもって、福祉産業建設委員会を閉会いたします。

閉会 午前11時27分

委員長 長時間、熱心に御審議いただき、ありがとうございました。

これにて散会いたします。どうもありがとうございました。

散会 午前11時27分

この記録は事実と相違ないことを認めここに署名する。

令和5年12月13日

福祉産業建設委員会
委員長